

「芸術分野の教科（美術科・音楽科）の指導法とアイデア」

10月29日(金)に第4回瀬戸内まなび塾を行いました。今回は、邑久中学校教諭の杉本正章先生(美術科)と長船中学校教諭の佐々木悠先生(音楽科)を講師として、芸術分野の教科の指導法について模擬授業、演習を通して先生方と一緒に勉強しました。美術では「ぼぼ茶色！」と題して、筆で彩色していくのではなく、水で色を抜いていくという発想を、音楽では「映画音楽の秘密をさぐろう」で、鑑賞の学習で、映像に真逆のイメージの音楽を組み合わせることで音楽の要素に気付いていくという発想等を新たに得ることができ、これから授業をつくっていく上での、貴重なアイデアをいただきました。



音楽の授業づくりをどうすればよいか分からず困っていたので受講しました。やはり一番は「楽しむ」ことなのだ改めて感じました。これから様々な教材を組み合わせたり、工夫したりして、まずは自分が楽しんで授業づくりをしたいと思いました。

杉本先生に教えてもらって「安心して面白い絵を描こう。」と思いました。佐々木先生の映画音楽の授業はワクワクしました。音楽によって映像のイメージが決まるという体験ができました。

美術も音楽もとても新しい発想で驚かされました。美術については教えるのは苦手ですが、肩の力を抜いて「失敗はない。」「個々の多様性を認める。」という視点をもっともって授業していきたいと思いました。

子どもをひき付けるしゃべりや興味をひく教材の設定など、模擬授業で具体的なものを見ることができ参考になりました。

今日の研修は「こうしたらおもしろそう。」「これはできそう。」と思えるものばかりで、授業でやってみたいと強く思いました。「上手に描く、作る」ではなく、「楽しく取り組める」という視点をもって授業をつくっていきたいと思いました。



私自身は音楽や美術が好きでも、教えるということは難しいとつくづく思うので、今日様々なアイデアをいただけてとても参考になりました。子どもは「うまくやりたい。」という気持ちはあるので、越えられそうなハードルを用意しておくのは大切だと思いました。

これから子どもたちの表現をしっかりほめたり認めたりしていきたいです。「ぼぼ」という言葉でハードルをさげることでどの子ども取り組みやすいというのがとてもいいなと思いました。

音楽、美術の楽しさを感じることができました。自分が授業をするときは、音楽の要素に気付かせないと、描き方の技法を伝えないとなど、教えないといけなるとばかり考えてしまいます。教える立場の私自身が楽しんで授業すると、上手にできる、できないに関わらず、子どもたちが活動を楽しめるだろうと思いました。

